

平成29年度 JICA 草の根技術協力事業

埼玉版アクティブ・ラーニング型授業による授業改善のための教員研修支援
(フィリピン)

第1回埼玉研修 実施報告書

平成29年5月21日(日)～平成29年5月30日(火)



埼玉県教育委員会

「埼玉研修」実施報告書 目次

研修概要	1
研修日ごとの活動	
・ 5月21日(日) 成田空港出迎え	4
・ 5月22日(月) 開講式・講義 「埼玉の教育」他	5
	開講式 6
	講義 「埼玉県の教育概要(初等中等教育)」 9
	講義 「総合教育センターの役割」 9
	所内見学 10
	歓迎会 10
・ 5月23日(火) ワークショップ ・ 「知識構成型ジグソー法の理解」	11
・	ワークショップ 「体験を通じてKCJを知る」 12
	ワークショップ 「KCJ」の進め方を自分のものにする」 13
・ 5月24日(水) 学校訪問 ・教育局表敬訪問	14
	学校訪問 「久喜市立江面第二小学校」 15
	教育局表敬訪問 17
・ 5月25日(木) 障害者スポーツの理解・学校訪問	18
	「ボッチャ」競技をととした障害者スポーツの理解 19
	学校訪問 「県立不動岡高等学校」 20
・ 5月26日(金) ワークショップ ・ 「知識構成型ジグソー法の理解」	23
	ワークショップ 「KCJ」の背景にある原理」 24
	ワークショップ 「KCJ授業づくりのポイント」 24
・ 5月27日(土) 日本文化体験	25
	秋葉原・浅草周辺視察 26
・ 5月28日(日) 休日	
・ 5月29日(月) 学校訪問 ・ワークショップV「日本の授業者との交流」・閉講式	27
	学校訪問 「県立和光国際高等学校」 28
	ワークショップ 「日本の授業者との交流」 28
	研修評価会・閉講式 29
・ 5月30日(火) 成田空港出発	
成果と課題	34

I 研修概要

1 主催

埼玉県教育委員会

〔事業全体管理・研修企画運営〕 埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課

〔研修運営・教員研修〕 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

埼玉県立総合教育センター

※JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠：平成28年度～30年度）の平成29年度事業として実施

2 研修支援・協力

東京大学高大接続研究開発センター高大連携推進部門内「C o R E Fユニット」

3 研修名称

「埼玉版アクティブ・ラーニング型授業による授業改善のための教員研修支援」事業
第1回埼玉研修

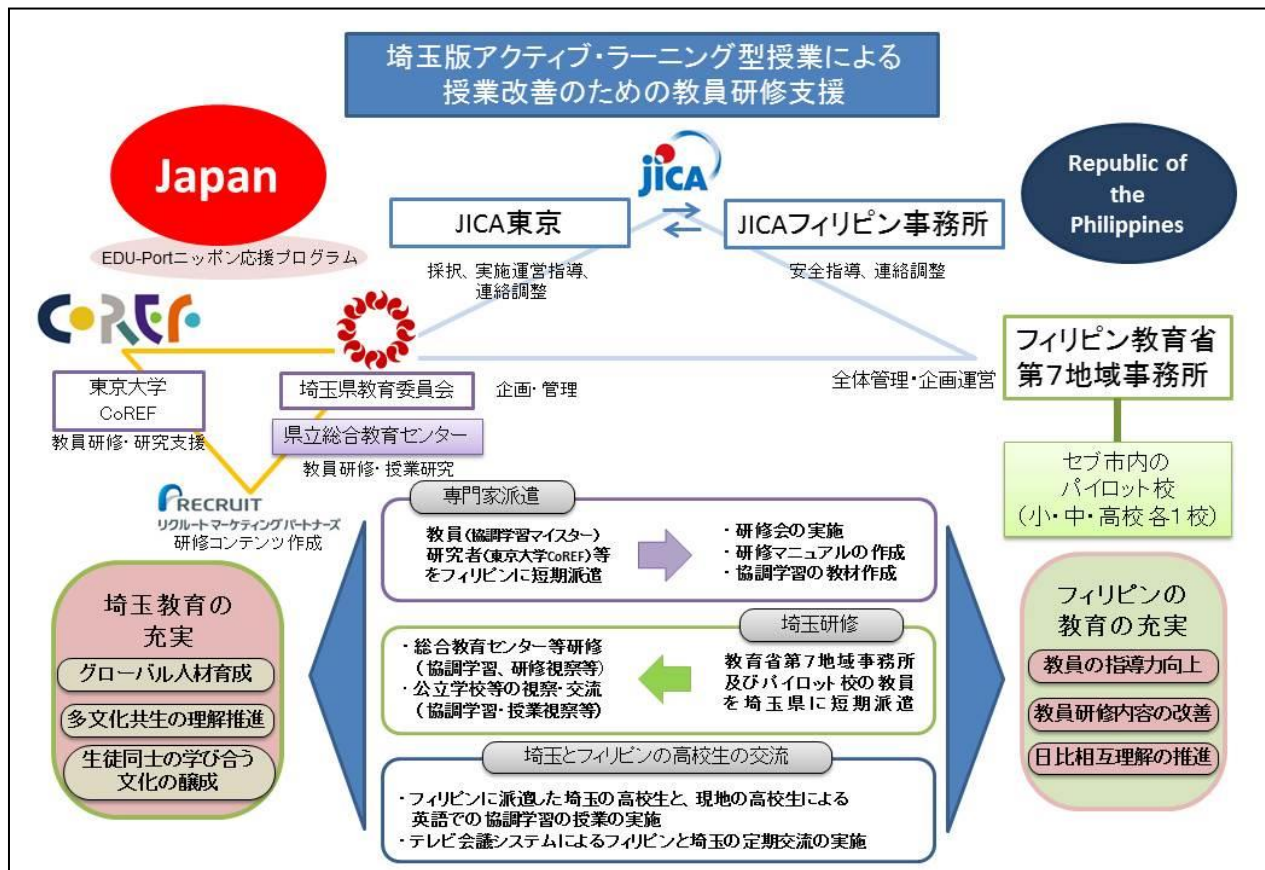
4 研修目的

フィリピン（セブ州・第7地域事務所）の教育行政関係者及び初等・中等教育学校の教員（パイロット校30名）に対して、子供たちの主体的・協働的な学びを実現する指導方法の習得をめざし、協調学習の理論習得と「知識構成型ジグソー法」による授業の実践力を育成し、フィリピンの初等・中等教育の強化を図ることを目的とする。

5 研修期間

平成29年5月21日（日）～平成29年5月30日（火）

6 実施体制等



7 研修参加者

	氏 名	性	所属・職名
1	ILAGAN, LIGAYA GENABE	女	教育省学習運用局学習課・教育課程統括官
2	JERUTA, JULIET ABIOL	女	教育省第7地域事務所・所長
3	ELNAR, EMILIANO JR. BURDAGO	男	教育省第7地域事務所・主席教育指導幹
4	SABINO, SYLVIO HERMOSO	男	教育省第7地域事務所 教育課程担当・指導主事
5	GUDELOSAO, DANILO GUES	男	教育省セブ市教育委員会 学校支援部教育長
6	PATIÑO, MARITES VALDUEZA	女	教育省セブ市教育委員会 教育課程担当 指導主事
7	BINOBO, IMELDA NERZA	女	セブ市 グアダルペ小学校・校長
8	EGOS, EMALINDA CHAVEZ	女	セブ市 グアダルペ小学校・教諭
9	BORINAGA, KIMBERLY RIVERA	女	セブ市 グアダルペ小学校・教諭
10	MANABAT, FLORENTINO JR. LABISTE	男	セブ市 グアダルペ小学校・教諭
11	BACALSO, MARY ANN DUMDUM	女	セブ市 セブ国立科学高校・教諭
12	GERALDE, JENNIFER TORREON	女	セブ市 セブ国立科学高校・教諭
13	IGAY, WILMA MEDEL	女	セブ市 セブ国立科学高校・教諭
14	ATILLO, FELBIRT LUNA	男	マンドラウエ市 総合国立高校・教諭
15	SAMSON, ROBERTO JR. DACUA	男	マンドラウエ市 総合国立高校・教諭
16	ESPINOSA, ROSALIE SENO	女	マンドラウエ市 総合国立高校・教諭



【開講式後の集合写真】

8 主な研修場所

県立総合教育センター、県立不動岡高等学校、県立和光国際高等学校、久喜市立江面第二小学校

9 研修計画

全体計画（A 3、1 枚、日本語・英語版）、詳細計画（A 4、各日ごと、日本語）を作成した。

JICA草の根技術協力事業(フィリピン) 第1回埼玉研修 最終版									
スケジュール									
月 日	曜 日	時 間	研 修 内 容	場 所	英語	局関係	センター	CoREF	JICA
5月21日	日	来日	出迎え、チェックイン、ブリーフィング	成田空港	高指課 遠藤	高指課 木村主幹	鎌田教育主幹 企画調整(山崎、清水)	—	
5月22日	月	10:00-12:00	開講式、オリエンテーション、所内見学	総合教育センター	朝:高指課 遠藤 9:00ホテル発 帰:高指課 遠藤	高指課 羽田参事(開講式) 高指課 遠藤(開講式、オリ エンテーション、懇親会)	小島所長 鎌田教育主幹 企画調整(山崎、清水、 増田、中川)	—	杉村課長 (開講式まで) 鈴木先生 (11時まで) 高橋 (11時まで) 廣瀬
		14:00-15:00	講義:埼玉県の教育概要(初等中等教育)						
		15:30-16:30	講義:総合教育センターの役割						
		17:15-19:00	所内懇親会				関係所員		
5月23日	火	9:00-12:00	ワークショップⅠ【知識構成型ジグソー法①】	総合教育センター	朝:高指課 遠藤 8:00ホテル発 帰:センター石井	高指課 高井 高指課 遠藤	教育課程 石井	白水 齋藤 秋山 松本	鈴木先生 高橋 廣瀬
		14:00-17:00	ワークショップⅡ【知識構成型ジグソー法②】						
5月24日	水	9:00-14:00	学校訪問研修(久喜市立江面第二小学校)	江面第二小学校	朝:高指課 鈴木 7:15ホテル発 帰:高指課 鈴木	高指課 鈴木 高指課 遠藤 義指課 福沢主任指導主事 (江面第二小のみ) 義指課 渡邊 (江面第二小のみ) 義指課 佐藤 (江面第二小のみ)	水野総合企画長 企画 山崎、清水 教育課程 増田	白水 齋藤	-
		16:00-17:00	教育長表敬訪問	埼玉県教育局			小島所長 水野総合企画長 鎌田教育主幹		
		17:30-19:00	教育局との懇親会						
5月25日	木	9:00-11:00	ワークショップⅣ 【「ポッチャ」競技をとおした障害者スポーツの 理解】	総合教育センター	朝:センター石井 8:00ホテル発 帰:センター須澤	-	特別教育支援担当 ポッチャ参加(16名)	—	-
		13:00-17:00	学校訪問研修(不動岡高等学校) 【交流会、部活動視察等】				小島所長 鎌田教育主幹 企画 山崎 教育課程 石井、大木		
5月26日	金	9:00-12:00	ワークショップⅢ【知識構成型ジグソー法③】	総合教育センター	朝:高指課 遠藤 8:00ホテル発 帰:高指課 遠藤	高指課 榎田 高指課 遠藤	企画 山崎、野崎	白水 飯窪 齋藤 秋山 松本	鈴木先生 高橋 廣瀬
		14:00-17:00	ワークショップⅣ【知識構成型ジグソー法④】						
5月27日	土	9:00-16:00	日本文化体験(浅草、秋葉原、他)	浅草他	朝:高指課 岡田(直) 7:30ホテル発 帰:高指課 岡田(直)	高指課 木村主幹 高指課 岡田(直)	鎌田教育主幹 企画 山崎、清水 情報 大沼、山本、山内	—	-
5月28日	日	休日							
5月29日	月	9:00-12:00	学校訪問研修(和光国際高等学校)	和光国際高等学校	朝:高指課 遠藤 7:00ホテル発 帰:高指課 遠藤	高指課 遠藤	小島所長 鎌田教育主幹、山崎	白水 飯窪 齋藤 秋山 松本	長谷川次長 (閉講式) 鈴木先生 廣瀬
		14:00-16:30	ワークショップⅤ【知識構成型ジグソー法⑤】	浦和高校 野澤教諭 高指課 岡田(祐) 高指課 遠藤		教育課程 山田 企画 野崎 教職 坂底			
		16:40-17:10	評価会	総合教育センター		高指課 杉田主幹 高指課 岡田(祐) 高指課 遠藤	企画 清水、野崎、増田	—	
		17:10-17:40	閉講式						
		17:50-20:30	マロウドインターナショナル成田へ移動(途中 夕食)			高指課 遠藤	教育課程 山田		
5月30日	火	7:00	資料整理・チェックアウト		マロウドインターナ ショナルホテル成 田	高指課 遠藤 7:00ホテル発	高指課 遠藤		教育課程 山田
		7:30	成田空港出発ロビー 見送り8:00頃 成田空港	成田空港					
宿泊先: キングアンバサダーホテル熊谷 〒360-0037 埼玉県熊谷市筑波1-99-1 Tel: 048-501-0077 Fax: 048-501-0088									
マロウドインターナショナルホテル成田 〒286-0121 千葉県成田市駒井野763-1 TEL:0476-30-2222									

宿泊先: キングアンバサダーホテル熊谷 〒360-0037 埼玉県熊谷市筑波1-99-1 Tel: 048-501-0077 Fax: 048-501-0088

マロウドインターナショナルホテル成田 〒286-0121 千葉県成田市駒井野763-1 TEL:0476-30-2222

Ⅱ 研修日ごとの活動

5月21日（日） 研修員来日・成田空港出迎え

時 間		内 容	場 所 等
12:00		成田空港 第2ターミナル ロビー集合	木村主幹・遠藤指導 主事 鎌田教育主幹
13:40		研修員 15名 到着 フィリピン航空434便	第2ターミナル
14:40		研修員 1名 到着 全日空820便	第1ターミナル
15:30		成田空港 出発（借り上げバス）	
18:30		キングアンバサダーホテル熊谷 到着	ホテル
19:00-20:00	60	夕食	熊谷市 ジョナサン
20:30		解散	ホテルロビー

研修員を乗せた飛行機は予定時刻よりも早く成田空港に到着した。研修員は疲れた様子も見せず、元気な顔で出発ゲートに現れた。



【研修員が元気に到着！】



【江戸崎 PA で休憩中】

5月22日（月）開講式/オリエンテーション/講義Ⅰ/講義Ⅱ/歓迎会

時 間		内 容	場 所 等
9:00		ホテル出発（借上バス）	ホテルロビー集合
9:30		センター到着	遠藤指導主事
10:00 11:00	60	開講式 司会：野崎指導主事 記録：増田指導主事 あいさつ 【JICA】杉村 悟郎 市民協力第一課長 【総 務】小島 克也 所長 【教育局】羽田 邦弘 参事兼課長 【研修生代表】Dr. Juliet A. Jeruta 自己紹介	体育研修室AB
11:00 12:00	60	オリエンテーション 司会・記録：野崎指導主事 訪問校紹介（指導課：遠藤指導主事） 所内見学 （企画調整：野崎指導主事／情報教育：大沼指導主事） 記念撮影（企画調整：野崎指導主事）	
		昼食休憩	ベルクで購入
14:00 15:00	60	講義：「埼玉県教育概要（初等中等教育）」 小島 克也 所長 司会・記録：野崎指導主事	体育研修室AB
		休憩	
15:30 16:30	60	講義：総合教育センターの役割 鎌田 勝之 教育主幹 司会・記録：野崎指導主事	体育研修室AB
		休憩	
17:45 19:00	75	歓迎懇親会	談話室兼食堂
19:15		センター出発（借り上げバス）	遠藤指導主事
19:35		ホテル到着	ホテル



【センターに到着した研修員】



【全職員でお出迎え】

■ 開講式 10:00～11:00

担当：増田一郎 指導主事（企画調整担当）

1 出席者 総合教育センター

小島 克也 所長 ・ 水野 義夫 総合企画長
貝沼 道浩 副所長 ・ 亀山 典幸 副所長 ・ 島崎 祐子 副所長
小久保 達夫 教育主幹 ・ 鎌田 勝之 教育主幹 ・ 大竹 秀明 教育主幹
各担当GL

JICA東京

杉村 悟郎 市民参加協力第一課長
高橋 依子 国際協力推進員 ・ 廣瀬 勝弘 国際協力推進員
鈴木 啓修 学校教育アドバイザー

高校教育指導課

羽田 邦弘 県立学校部参事兼高校教育指導課長 ・ 遠藤 宏之 指導主事

2 場 所 総合教育センター 体育研修室AB

3 内 容 (1) 開式

(2) 国歌斉唱（フィリピン国歌／日本国歌）

(3) あいさつ

① JICA東京国際センター市民参加協力第一課長	杉村 悟郎 氏
② 教育局県立学校部参事兼高校教育指導課長	羽田 邦弘
③ 県立総合教育センター所長	小島 克也
④ 研修員代表 Regional Director Dr.	Juliet A. Jeruta 氏
⑤ 自己紹介	

(4) 閉式



【開講式での研修員】



【研修員代表ヘルータ氏の挨拶】



【開会後の集合写真】



【教育省教科調査官ジェナバ氏】



【講義中の研修生】



4 挨拶

◆ JICA東京 杉村 市民参加協力第一課長〔要旨〕

皆様ようこそ埼玉へおいでくださいました。

我々 JICA としまして、フィリピンから研修生をお迎えして、埼玉県とともに草の根技術協力事業を実施することができて非常に嬉しく思います。

今回はアクティブラーニングがテーマとなっております。

研修生の皆様には、日本で、特に埼玉県内でアクティブラーニングがどのように実施されているか目の当たりにしていただき、あわせて日本の学校の授業運営全般についてもご覧いただき、フィリピンでアクティブラーニングを推進していく良い契機としていただきたく存じます。

このプロジェクトのほかに、すでにセブ州内で展開しております人材育成のプロジェクトでは、日本のものづくりの考え方について非常に共感していただいております。日本で働きたいという学生も出てきており、日本とフィリピン両国でたいへん注目されているところです。

このたびの第1回埼玉研修を通じて、両国が結びつきをますます強め、セブ州の名声が高まるお手伝いができることを嬉しく思います。

短い滞在期間ですが、日本の文化を含めて満喫していただければと存じます。



【JICA杉村課長】

◆ 高校教育指導課 羽田 課長〔要旨〕

皆さんようこそお越しくださいました。埼玉県教育委員会を代表して歓迎します。草の根協力事業は本年1月から始まり、今回の第1回埼玉研修で本格化します。

現在、世界の教育環境は大きな変化の時を迎えております。日本、フィリピンの両国においても例外でないと思います。

フィリピンでは K to 12 という教育プログラムが進行していて、来年度初めての卒業生が出るとかかっております。日本でも学習指導要領の改定が予定されており、高等学校につきましては今年度内容が示され、2022年から実施されます。

こうした中で実施されます、この草の根協力事業は、埼玉とフィリピンとの交流を通じて、相互の教育の質の向上を図る貴重な機会であると認識しております。埼玉県教育委員会は全力を挙げて取り組んでまいります。

このたびの研修が、フィリピンの皆様にとって大きな成果をもたらすとともに、研修中に交流を予定しております、埼玉県の小学生、高校生たちが、国際理解を深める機会ともなり、両国関係がますます進展することを希望いたしております。

研修期間は非常に短いですが双方にとって充実することを願ひまして、挨拶といたします。



【高校教育指導課 羽田課長】

◆ 総合教育センター 小島 所長〔要旨〕

おはようございます。ようこそお越しくださいました。昨晩はよく眠れましたでしょうか。皆様のおいでを待ち遠しく思っていました。

総合教育センターは埼玉の行田市にあります。行田市は埼玉県北部の歴史と自然が豊かな町です。今から 1700 年前頃につくられた古墳や、500 年前ころにつくられた城、忍城で有名な街です。

この総合教育センターは、埼玉県の幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校の先生が研修を行う県立の研修センターです。1 年間に、のべ人数で、およそ 4 万人の先生がここで研修を行います。職員は、ほとんどが指導主事でおよそ百人います。

総合教育センターは、教員研修の他に授業法の開発や教育相談も行っています。皆さんの十日間の滞在期間には、この教育センターでの研修だけでなく、小学校や高等学校の見学をする他、埼玉県教育委員会を表敬訪問していただく機会もございます。短い中にたくさんの中身があります。体調には十分ご注意ください。

皆様に多くのことを学んでいただき、私達もこの研修から多くのことを学びたいと思います。この研修がお互いに充実したものになることを期待して、挨拶いたします。



【総合教育センター小島所長】

◆ 教育省第 7 地域事務所長 ヘルータ氏 〔要旨〕

おはようございます。このたびはこのような機会をいただきありがとうございます。

草の根プロジェクトが昨年度から始まりましたが、フィリピンではちょうど K to 12 というプログラムをどのように進めるか議論をしているときで、大変良いタイミングでした。

カリキュラム、教師の資質・能力、授業法など様々なことでアドバイスをいただきたいと希望しています。生徒に質の高い教育を受けさせるためには、学級での授業の質が重要で、授業を担う教師の質が大切になります。

教育に対するニーズは多様化しており、先生方がそれに対応することが求められます。私たちは教師と生徒の関係性の中での学びを重視していますが、それに加えて生徒同士の共有・学び合いも大切に考えており、知識構成型ジグソー法の基礎にある考え方は共通しています。

研修を通じて、フィリピンの先生方がアクティブラーニングの第一人者になってもらうことはもちろん、逆に私どもから日本に皆さんの参考にしていただくことを提供できればと思います。両国のメンバーで協力して事業を推進したいと思います。



【研修員代表 ヘルータ氏】

■ 講義Ⅰ 14:00～15:00

担当：野崎亮太 指導主事（企画調整担当）

- 1 講師 総合教育センター 小島所長
- 2 場所 体育研修室AB
- 3 内容 埼玉県のエドゥカシヨ（初等中等教育）
 - ・ 埼玉県のエドゥカシヨ、県エドゥカシヨ委員会のしくみ
 - ・ 埼玉県のエドゥカシヨ資料
 - ・ 具体的な取組（学力向上・道徳教育・体力向上・グローバル人材の育成）
- 4 質疑 教員のエドゥカシヨ・昇進・分掌等について（主幹教諭・指導教諭等）
 - ・ 学びの体系（学習指導要領・教育課程・教科書等）について
 - ・ 日本、フィリピン両国の道徳教育の内容について
 - ・ 児童生徒の学力格差への対応について



【講義する小島所長】



【講義を受ける研修員】



【質問するサビーノ指導主事】



【質問するエゴス先生】



【説明する亀山副所長】



【説明する清水主任指導主事】

■ 講義Ⅱ 15:30～16:00

担当：野崎亮太 指導主事（企画調整担当）

- 1 講師 総合教育センター 鎌田教育主幹兼主任指導主事
- 2 場所 体育研修室AB
- 3 内容 総合教育センターの役割と特色
 - ・ センターの業務について
 - ・ センターが所管する教員研修について
 - ・ 研究・開発、相談事業について
 - ・ 多様な学びについて
 - ・ 持続可能な社会づくり（ESD教育）について



【講義をする鎌田教育主幹】

■ 所内見学 16:00～16:30

担当：野崎亮太 指導主事（企画調整担当）

- 1 説明者 総合教育センター
鎌田教育主幹 田中指導主事（情報教育推進担当） 山田指導主事（教育課程担当）
- 2 場 所 121研修室（3次元シアター） 教育資料室 化学室 音楽室 情報研修室 他
- 3 様子等 研修生たちは3次元映像、楽器、電子黒板等の体験に積極的に参加していた



【3次元シアター】



【音楽室で和楽器に親しむ】



【電子黒板を体験】

■ 歓迎会 17:15～19:00

担当：増田一郎 指導主事（企画調整担当）

- 1 出席者 小島所長、水野総合企画長、亀山副所長、島崎副所長、鎌田教育主幹、大竹教育主幹
他センター職員多数
- 2 場 所 談話室
- 3 次 第 (1) 所長挨拶（小島所長）
(2) 研修員挨拶
(3) 歓迎のことば（水野総合企画長）
(4) 記念写真撮影



【渡辺主査のギターで合唱】

センター懇親会 所長挨拶要旨

皆さん、こんばんは。本日は、お疲れさまでした。来日され、きょうが2日目です。日本の初夏の気候はいかがでしょう。大変過ごしやすい季節ではありますが、今回の埼玉研修は10日間という長期間の研修となります。体調管理には十分に気を付けてください。

研修を通じてセブ州の皆様と我々が指導者としての資質を高める機会になることを希望しています。素晴らしい指導者が子供たちを指導することで、子供たちの笑顔が溢れると確信しています。そして、どの国においても、子供たちの笑顔は我々に勇気と元気を与えてくれます。私たちは、生き生きと輝く子供たちを育てなくてはなりません。

今夜は、皆さんとそれぞれの国の子供たちの様子などを語りながら楽しいひとときを過ごしたいと思います。お食事というほどのものではありませんが、どうぞお召しあがりください。



【集合写真】

5月23日（火） ワークショップⅠ・Ⅱ「知識構成型ジグソー法の理解」

時 間		内 容	場 所 等
8:00		ホテル出発（借上バス）	ホテルロビー集合
8:30		センター到着	
9:00 - 12:00	180	【ワークショップⅠ】体験を通じてKCJを知る 9:00- 9:20 ウォーミングアップ（自己紹介） 9:20- 9:40 講義「目指す新しい学びのゴール」 9:35-10:30 KCJ 体験「葉はなぜ／折れ線」 10:30-10:50 《休憩》 10:50-11:45 体験の共有・振り返りと質疑 11:45-12:00 講義「KCJ の流れと効果」	225研修室 226研修室 CoREF （白水、齊藤、秋山、 松本） 企画調整（野崎） 教育課程（石井） 高指課（高井、遠藤）
12:00-14:00	120	昼食休憩	ベルク
14:00 - 17:00	180	【ワークショップⅡ】KCJ の進め方を自分のものにする 14:00-14:35 説明及びビデオ視聴（白石先生） 14:40-15:10 模擬授業準備 （授業案・教材をみて進行法を検討） 理科チーム「雲」 数学チーム「比例・反比例」 15:20-16:00 模擬授業①「雲」 16:00-16:10 《休憩》 16:10-16:55 模擬授業②「比例反比例」 16:55-17:00 振り返りと質疑	225研修室 226研修室 CoREF （白水、齊藤、秋山、 松本） 企画調整（野崎） 教育課程（石井） 高指課（高井、遠藤）
17:15		センター出発（借り上げバス）	教育課程（石井）
17:35		ホテル到着	ホテル

■ワークショップⅠ「体験を通じてKCJを知る」

(1) 講義1「目指す新しい学びのゴール」

C o R E F 白水教授が世界の現状から知識構成型ジグソー法について流れを説明した。



【白水教授による講義】



世界の動向を示したスライド

(2) 知識構成型ジグソー法体験

2班に分かれ理科と数学の授業を体験した。



【授業体験する研修員】

(3) 体験の共有・振り返りと質疑

研修員からの主な質問

Q：いくつも答えがある時は教員はどう答えるのか？

学習が進んでいる生徒が進んだ答えを言ってしまったときどうするか。

A：どういう答えを立てるかによってである。教員がこうだと示さず生徒が出した答えを尊重しながらファシリテートしていく。

(4) 講義2「KCJの流れと効果」

C o R E F 齊藤特任助教がKCJの進め方と効果を講義した。



【齊藤特任助教による講義】



【講義に聞き入る研修員】

(5) ビデオ視聴

協調学習マイスターの授業ビデオ及びインタビューを視聴した。



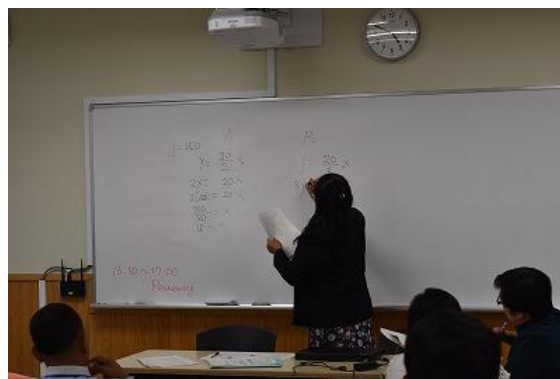
■ワークショップⅡ「KC」の進め方を自分のものにする」

2班に分かれ、既存の2つの授業案・教材を使い各グループで協議し、模擬授業を実施した。

(1) 模擬授業①「雲」



(2) 模擬授業②「比例反比例」



(3) その他

各研修生へ11種類の英訳教材を参考資料として渡した。

5月24日（水） 学校訪問（久喜市立江面第二小学校）・教育局訪問

時 間	内 容	場 所 等
7:15-8:45	ホテル出発7:15 ※高指導課職員乗車 →（借上バス）→9:00頃江面第二小着	ロビー集合
9:10-12:30	I-1 埼玉の初等中等教育理解／ IV異文化理解・体験・交流 学校訪問 ・開会行事 (1) 挨拶 高校教育指導課 久喜市教育委員会 会場校校長 (2) 授業説明 (3) 日程説明 9:00 到着 9:10～ 9:25 開会行事 9:50～10:35 公開授業① 10:50～12:00 研究協議 12:10～12:30 公開授業② 12:30～13:15 給食・休憩 13:15～13:35 児童の活動見学 13:40～13:50 閉会行事 ・公開授業① 5-1 理科 「発芽の条件」について3つのエキスパートグループに分かれて話し合い、クラスで発表しあう。 ・研究協議 (1) グループ協議 (2) 全体協議 (3) 解説 ・公開授業② ALT(フィリピン)による外国語活動 授業のトピックは「英語での季節の言い方」 	CoREF （白水、齋藤） 高指（遠藤、鈴木） 義務指 （渡邊、鈴木） 総セン（水野、山崎、清水、増田） 図書室 等
12:30-13:35	・昼食：給食、休憩 ※2グループに分かれて給食 ・児童の活動見学：清掃	図工室 家庭科室
13:40-13:50	・閉会行事 (1) 諸連絡 (2) 御礼（フィリピン関係者代表より） (3) 閉会	図書室
14:00-16:00	江面第二出発14:00頃→（借上バス） →15:20頃県庁着 ※高指課職員同行	総セン（水野）
16:00-17:10	・埼玉県教育局表敬訪問 (1) 出席者紹介歓迎挨拶（埼玉県教育委員会） (2) 研修員代表挨拶 (3) 教育委員会挨拶 (4) 記念品贈呈 (5) 懇談 (6) 閉会の言葉	埼玉県庁 教育委員会室
17:30～ 19:10	懇親会 真心亭にて	真心亭

■ 久喜市立江面第二小学校訪問 9:10～13:50 担当：福沢主任指導主事（義務教育指導課）

〔同行者〕 遠藤指導主事・鈴木指導主事（高校教育指導課）

水野総合企画長・山崎主任指導主事、清水主任指導主事・増田指導主事（総セン）

渡邊指導主事、佐藤指導主事（義務教育指導課）

白水教授（東京大学）・ 齊藤特任助教（東京大学）

1 開会行事（佐藤指導主事）

挨拶

遠藤指導主事（高校教育指導課） 青山主幹（久喜市教育委員会） 矢島校長

授業者から授業説明（江面第二小 松本教諭）

日程説明（福沢主任指導主事）



【久喜市教委 青山主幹】



【江面第二小 矢島校長】



【江面第二小 松本教諭】

2 公開授業①（5年1組 理科 種子の発芽と成長）

松本教諭による、知識構成型ジグソー法を用いた授業の見学。



【授業を行う松本教諭】



【授業の様子】



【児童の様子を見る研修生】

3 研究協議

(1) グループ協議

(2) 全体協議

(3) 解説（渡邊指導主事）



【質問に答える松本教諭】



【渡邊指導主事による解説】



【各グループからの発表】

《研究協議会の進め方》

①松本教諭の授業について、4人1グループで付箋と模造紙を使い、振り返る。

②各グループから振り返りについて発表する。

③渡邊指導主事から、日本で行われている研究協議について解説を聞く。

4 公開授業②（フィリピン出身の ALT の授業参観「外国語活動」）



【ALT と児童の活動】

日本で活躍するフィリピンの仲間を知ってほしいという校長から依頼があり、ALT（フィリピン出身）の授業を参観した。



【ALT と児童と記念撮影】

5 給食



【歓迎のセレモニー】



【プレゼント贈呈（折り鶴）】

全校児童が2つに分かれ、訪問者全員と給食をいただいた。児童は少し恥ずかしがりながらも、研修生に質問などをしていた。フィリピンには、1校で何千人もの児童生徒がいる学校があることを知って、とても驚いていたが、少人数の学校の良さ（みんなととても仲良くなれることなど）を伝えたりしていた。

「いただきます。」の前には、心温まる歓迎のセレモニーも行われた。

また「ごちそうさま。」の後には児童の手作りの折り鶴のプレゼントが渡された。

6 閉会行事

- (1) 諸連絡
- (2) 御礼（フィリピン関係者代表より）
- (3) 閉会



【閉会行事】



【校長先生から訪問者へサプライズプレゼント】

■ 教育局訪問 16:00～17:10

進行：遠藤指導主事

〔参加者〕 渡邊県立学校部副部長、関口市町村支援部副部長
羽田課長、木村主幹、岡田指導主事、鈴木指導主事、遠藤指導主事（高校教育指導課）
小島所長、水野総合企画長、鎌田教育主幹（総合教育センター）
高橋主任調査役、鈴木学校教育アドバイザー（JICA 東京）

- 1 出席者紹介
- 2 研修員代表挨拶
第7地域事務所 所長 ヘルータ氏
- 3 教育委員会挨拶
渡邊 亮 県立学校部副部長
- 4 記念品贈呈
研修員一人ひとりにコバトンのぬいぐるみが手渡しされた。
- 5 懇談
研修員全員にこれまでの研修の感想を述べてもらった。

《教育委員会挨拶要旨》

今回の研修では、埼玉県教育制度や研修制度等(など)の教育事情はもちろん、日本文化体験や学校視察などを通して、日本人の考え方などについても理解できるよう研修を計画、実施している。

2015年の9月に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）では、17の目標があり、その一つに「質の高い教育をみんなに」という項目がある。

私は、教育こそが世界の様々な問題を解決するために最も重要だと考えている。

この事業が、言葉の壁を超え、その第1歩になればと思う。

そして、この場にいる皆さんと私たちの思いが、それぞれの国の教員や子供達に浸透し、多文化共生への更なる一歩となることを期待する。



【挨拶をするヘルータ氏】



【挨拶する渡邊副部長】



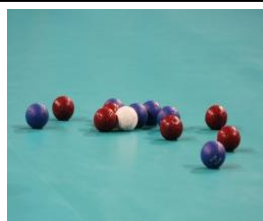
【一人ずつコバトンを受け取る研修生】



【全員で記念撮影】

5月25日（木）「ボッチャ」競技をととした障害者スポーツの理解
学校訪問Ⅱ（県立不動岡高等学校）

時 間		内 容	場 所 等
8:00-8:30	30	ホテル出発 8:00 ※センター職員乗車 →（借上バス）→8:30 頃総合教育センター着	体育館集合
9:00-9:40	40	説明・練習 ・「ボッチャ」について説明 ・準備体操 （「ラジオ体操 第一」） ・練習	総合教育センター 体育館 〈特別支援教育〉 〈企画調整〉
9:40-10:50	70	競技 ・競技のデモンストレーション ・練習をしたペアをもとに8チーム作り、トーナメント式で競技を行う ・各チーム2～3試合を体験	
10:50-11:00	10	まとめ ・感想と表彰	
11:20-12:50	50 40	11:20（借上バス）→ ベルク行田店（昼食）	ベルクにて昼食後 不動岡高校へ移動
12:50		不動岡高校 到着	教育課程（石井）
13:00 17:00	240	13:10～13:20 開会 ・武正校長挨拶 ・本日の説明説明 13:20～15:40 交流① ・校内見学 15:50～16:40 交流② ・グループ懇談 16:40～17:00 閉会	小島所長 鎌田教育主幹 企画調整（山崎） 教育課程 （石井、大木）
17:15		不動岡高校 出発（借り上げバス）	教育課程（石井） ホテル
17:55		ホテル到着	



ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。 ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。
（日本ボッチャ協会HPより）

■「ボッチャ」競技をととした障害者スポーツの理解 9:00～11:00

担当：森田指導主事、森澤指導主事、栃金指導主事

1 説明・練習

- ・自己紹介
- ・日程説明
- ・解説ビデオを使つての説明
- ・所員とペア作り

ペアでの準備体操（「ラジオ体操 第一」）

ペアでのボールを使った練習（ゴロキャッチボール、的当て）



【特別支援教育担当による説明】



【元気よくラジオ体操】



【練習から大いに盛り上がる研修生と所員】

2 競技

- ・担当者と所員による競技のデモンストレーション
- ・競技

研修生と所員の混合チーム（8チーム）によるトーナメント式の競技会
全チームが2～3試合を体験



【チーム対抗の試合の様子 ミラクルショットによる逆転もありました】

3 まとめ

- ・研修員の感想・競技会の表彰



【表彰式では所長より特別支援教育担当手作りメダルを授与】

■県立不動岡高等学校訪問 13:00～16:50

担当：山崎主任指導主事、石井指導主事、大木指導主事

訪問者 フィリピン研修員16名、通訳2名、県立総合教育センター5名

対応者 武正校長、神田教頭、教員、外国語科生徒、各部活動顧問・生徒

1 開会（挨拶、本日の概要説明）



【挨拶をする武正校長】

ようこそ、不動岡高校へお越しくださいました。
フィリピンの皆様を心より歓迎申し上げます。

本校は131年目を迎える伝統校です。本日は、外国語科1年生が、皆様のご案内をします。生徒の様子や校内の環境等をご覧ください。どうぞよろしくお願いします。

・概要説明（神田教頭）

不動岡高校について、英語版リーフレットをもとに説明し、本日の日程、交流①及び交流②について説明した。

交流①はフィリピンの研修生を5つのグループに分け、生徒が校内を案内、そして、交流②はグループ毎の懇談会を実施することを伝えた。



【神田教頭】

2 交流① 校内案内

外国語科の1年生が、各グループに分かれた研修生をエスコートし、校内を案内した。各部活動の見学では、各種の体験をした。剣道部では、「This is my first time!」と言って、思い切り「め〜ん」と声を出しながら打ち込む姿などが見られ、とても楽しそうだった。



【案内役の生徒達】



【校内を生徒が案内】



【格技場で「め〜ん!」】



【はじめて剣道の面をつける】



【吹奏楽部】



【合唱部】



【剣道部の皆さんと】



【合唱部の皆さんと】



【中庭にて応援団&チアリーディング部】



【体育館のバレエ部】



【化学部で演示実験、実験器具の操作】



【箏曲部】

3 交流② グループ懇談

校内案内に引き続き、案内を受けたグループでのグループ懇談を行った。車座になり、英語で積極的に話しかける生徒に対して、研修生は優しく対応していた。

研修生が、英語でどのように話したらよいかを生徒に指導する場面もあり、研修生は「教員の顔」になっていた。生徒達も貴重な体験ができた。



【生徒との懇談の様子】



【生徒との懇談の様子】

4 閉会



【研修生より、感謝を歌で】



【生徒の歓声に包まれて出発】



【校舎の前での記念撮影】

5月26日（金） ワークショップⅢ・Ⅳ「知識構成型ジグソー法の理解」

時 間		内 容	場 所 等
8:00		ホテル出発（借上バス）	ホテルロビー集合
8:30		センター到着	
9:00 12:00	180	【ワークショップⅢ】KCJの背景にある原理 9:00- 9:20 ウォーミングアップ 9:20-11:00 学習科学ジグソー HPL 的な読み物を読み合わせ 「対話型授業は生徒に対してどのような学習成果が期待できるか、なぜそう考えられるか」 11:00-11:20 《休憩》 11:20-12:00 講義「KCJの背景原理と引き起こしたい学習」 質疑応答	221 研修室 222 研修室 CoREF （白水、飯窪、斉藤、秋山、松本） 高指課（櫻田、遠藤） 企画調整（野崎）
12:00-14:00	120	昼食休憩	
14:00 17:00	180	【ワークショップⅣ】KCJ 授業のデザイン 14:00-14:35 講義「授業づくりのポイント」 14:35-16:25 授業デザイン検討会 （Elementary, Math, Science の3グループ） 16:25-17:15 クロストーク・意見交流	221 研修室 222 研修室 CoREF （白水、飯窪、斉藤、秋山、松本） 高指課（櫻田、遠藤） 企画調整（野崎）
17:15		センター出発（借り上げバス）	
17:35		ホテル到着	ホテル

■ワークショップⅢ KCJの背景にある原理

(1) 講義3「KCJの背景原理と引き起こしたい学習」

齊藤特任助教より、知識構成型ジグソー法の背景にある学習科学の原理とジグソー法を用いて引き起こしたい学習の説明があり、研修生たちは、実際にその原理と学習をジグソー法を通して体験した。



【講義する齊藤特任助教】



【研修をジグソー法で体験する研修生】

《主だった反応》

- ・マテリアルを読んで考えることに慣れていない生徒もいる。（ジグソー活動中の発言）
- ・考えを（言葉などで表現することで）外部化できる。これにより自分の考えをかためることができ、また、自分の中の誤解を修正することも出来る。（クロストーク）
- ・1つ1つの情報がそれぞれの理解を深める。他者の言葉を聴くことにより自分を肯定でき、誤解も修正できる（クロストーク）
- ・さまざまな見方をシェアして、合意をつくることにより、皆で同じ解決に到ることが出来る。最初は違う考えを持っていたメンバーすべてがコンセンサスにたどり着くことが出来る（クロストーク）

(2) 講義4「授業づくりのポイント」

フィリピンの学校現場で使われている教科書を題材に、CoREFが指定した単元で授業デザインを検討した。検討においてはElementary, Math, Scienceの3グループに分かれて授業デザインを検討し、最後にクロストークによりグループで作成した授業デザインを共有した。

《作成した授業案の単元》

Elementary：熱伝導

Math：円の性質（円グラフ）

Science：プレートテクトニクス



【個人で授業デザインを検討中】

5月27日（土） 日本文化体験（浅草、秋葉原、他）

時 間		内 容	場 所 等
7:45		ホテル出発→（徒歩）→熊谷駅	ロビー集合
8:12-9:25	73	熊谷駅出発 8:12→（JR高崎線）→9:18 上野駅着 上野駅出発 9:18 前後（JR線）→9:25 頃秋葉原着	〈情報教育〉 〈高校教育指導課〉 熊谷駅発 秋葉原着
9:25-11:30	125	・集合【9:30 秋葉原駅中央口 出口付近】 日本文化体験（浅草、秋葉原、他） ・秋葉原散策 →（徒歩）→9:30頃 ヨドバシカメラ 電気街（免税店）等 → 11:30 集合	〈情報教育〉 〈高校教育指導課〉 〈企画調整〉
11:45 前後	15	秋葉原駅出発 11:45 前後→（つくばエクスプレス） →12:00 前後 浅草駅着	秋葉原駅発 浅草駅着
12:30頃-13:30頃	60	・昼食 ロイヤルホスト 浅草店	
13:30-16:00	150	・和光国際高等学校生徒による浅草散策 仲見世通り、浅草寺等	〈情報教育〉 〈企画調整〉
16:10-18:01	111	浅草駅出発 16:40 →（つくばエクスプレス）→16:50 秋葉原駅着 17:00 秋葉原駅発 → 17:15 上野駅着 17:42 上野駅出発→（新幹線）→18:01 熊谷駅着	浅草発 熊谷着
18:05-18:35	30	熊谷駅出発 18:05 頃→（徒歩）→18:30 頃ホテル着	キングアンバサダー ホテル熊谷

■ 東京・秋葉原、浅草視察 9:30～16:00

担当：大沼指導主事（情報教育推進担当）岡田（直）指導主事（高校教育指導課）

〔同行者〕木村主幹兼主任指導主事、

鎌田教育主幹兼主任指導主事、山崎主任指導主事、中川指導主事（企画調整担当）

山本指導主事、山内指導主事（情報教育推進担当）、

浅見教諭、寺沢教諭（和光国際高等学校）

〈秋葉原散策〉



【熊谷駅にて】



【秋葉原中央口にて集合】

〈浅草散策〉



【和光国際高校の生徒と散策の打合せ】



【浅草寺にて】

〈新幹線乗車体験〉



【念願の新幹線へ乗車】

◆研修担当の所感

和光国際高等学校の生徒が、2人1組となり浅草を案内した。研修員たちは、生徒と英語でコミュニケーションを取りながら散策していた。「仲見世通り」を歩きながら土産屋をのぞいたり、浅草寺等の日本の建造物を見学したり、日本の文化や風習などに触れるよい機会となった。散策後には、研修員と生徒が、笑顔で握手を交わしていた。互いに有意義で楽しい時間を過ごせたようだ。

また、研修生たちが是非乗りたいと言っていた新幹線にも乗車することができ、とても嬉しそうだった。

5月29日（月） 学校訪問Ⅲ（県立和光国際高等学校）・
ワークショップV「授業者との交流」・評価会・閉講式

時 間		内 容	場 所 等
7:15		ホテル出発（借上バス）	ホテルロビー集合
9:00		和光国際高校 到着	
9:00 12:30	110	和光国際高校訪問 はじめの会 授業者より 授業見学 終わりの会 研修員代表挨拶 食堂で昼食	和光国際高等学校 総セン（小島所長、 鎌田教育主幹、山崎 主任指導主事） 高指課（遠藤指導主 事） CoREF （白水、飯窪、齊藤、 秋山、松本）
12:40		和光国際高校 出発	
14:30		センター 到着	
14:45 16:35	105	【ワークショップV】日本の授業者との交流 14:45-15:30 8月の訪問日程の相談 15:30-16:15 教科別に分かれて実施を想定した授業案を検討（日本の 授業者を交えて） 16:15-16:30 発表 算数「整数」、理科「骨格・臓器」、理科「実験」、 数学「扇形の弧の長さ」、数学「利率」、理科「加速度」 16:30-16:35 まとめ 振り返り	221 研修室 CoREF （白水、飯窪、齊藤、 秋山、松本） 高指課（岡田裕指導 主事、遠藤指導主 事） 企画調整（野崎指導 主事） 教職員研修（坂庭指 導主事） 浦和高校野澤教諭
		《休憩》	
16:50 17:20	30	評価会 司会：鈴木学校教育アドバイザー 研修報告／成果報告／質疑応答／諸連絡	体育研修室AB
17:20-18:30	70	閉講式 司会：清水 記録：増田 挨拶／修了証授与／研修員挨拶	体育研修室AB
18:40		センター出発（借り上げバス）	
21:00		ホテル到着（マロウドインターナショナル成田）	ホテル 高指課（遠藤指導主 事） センター（山田指導 主事）

■ 県立和光国際高等学校訪問 9:00～12:40

- 1 はじめの会（教頭）
挨拶 伊藤校長 学校概要説明 原教頭
- 2 授業者から授業説明（和光国際高校 山崎教諭）
- 3 公開授業（2年 異文化理解）
ポケモンGoを題材とした知識構成型ジグソー法を用いた授業を見学した。
- 4 終わりの会（遠藤指導主事）
研修員を代表してヘルータ氏がお礼の言葉を述べた。



【挨拶をする伊藤校長】



【生徒にテーマを説明する山崎教諭】



【ジグソー活動で話し合う生徒】



【授業見学する研修生】



【和光国際高校前でパチリ】

■ 打合せ 14:45～15:30

8月の専門家派遣に向けて、小学校・中学校・高校の訪問日程を決めた。さらに訪問日の授業者と研究協議の時間を午前・午後どちらで行うかも協議して決定した。8月22日にグアダルペ小、23日にセブ国立科学高校（中高一貫校）、24日にマンドラウエ総合高校への訪問となった。

■ ワークショップⅤ 14:45～16:35

担当：野崎亮太 指導主事（企画調整担当）

- 1 指導者 東京大学高大接続研究開発センター CoREF ユニット
白水 始（教授） 斉藤萌木（特任助教） 飯窪真也（特任助教）
県立浦和高等学校 野澤優太（教諭）
総合教育センター 坂庭千絵（指導主事） 野崎亮太（指導主事）
- 2 場 所 221 研修室
- 3 様子等 研修生たちは白水教授の解説を熱心に聴き、理科と数学に分かれて知識構成型ジグソー法の授業案の作成を行った。フィリピンの教科書を資料として、浦和高校 野澤教諭らの助言のもと、教材作成について実質的な議論を行った。



【白水教授の熱のこもった指導】



【指導する野澤教諭】



【助言する坂庭指導主事】

■ 研修評価会・閉講式 16:50～17:50

担当：山崎主任指導主事、清水主任指導主事（企画調整担当）

- 1 出席者 JICA 東京 長谷川利久 JICA 東京国際センター次長
鈴木啓修学校教育アドバイザー
通訳 河田 裕子氏、石川 綾氏
高校教育指導課 杉田和明主幹兼主任指導主事、遠藤宏之指導主事、岡田祐二指導主事、
センター 小島克也所長、水野義夫総合企画長、貝沼道浩副所長、
小久保達夫教育主幹、鎌田勝之教育主幹兼主任指導主事、
大竹秀明教育主幹兼主任指導主事、各担当GL、企画調整担当

2 場 所 体育研修室 AB

3 内 容（次 第）

（1）研修評価会

（ア）研修報告 （イ）研修成果報告 （ウ）質疑応答

（2）閉講式

（ア）開式 （イ）国家斉唱〔ブラジル、日本〕 （ウ）挨拶

①JICA 東京 長谷川 敏久 次長

②高校教育指導課 杉田 和明 教育主幹兼主任指導主事

③埼玉県立総合教育センター 小島 克也 所長

（エ）修了証授与（JICA 東京）

（オ）研修員代表挨拶 教育省第7地域事務所 所長 ヘルータ 氏

（カ）閉式

4 研修評価会 （進行：JICA 東京 鈴木 学校教育アドバイザー）

（1）研修報告 総合教育センター 小島 克也 所長

研修初日から、当日までの研修をスライドで振り返りながら、その時々のエピソードを交えての研修報告であった。江面第二小や和光国際高校などの訪問では、知識構成型ジグソー法についての理解が深められ、また、不動岡高校での部活動見学やボッチャ体験など、充実した研修であったことがうかがえた。

研修生たちは、スライドの画面に見入って、それぞれの思い出を語り合うなど、学びの中にも、楽しい研修であったと思われる。



【挨拶・研修報告をする小島所長】



【閉講式に臨む研修生】

(2) 研修成果報告〔要旨〕

① Ligaya Genaba 研修員

埼玉の教育センターの皆様、学校の先生方のおかげでいい研修になった。特に、学校を訪問できたことは、いい思い出になっている。毎日、新しい発見があり、特に KCJ について、私たち一人一人が理解を深めていくことができた。教育システムの違い、初めての導入など、課題もあるが、フィリピンにはいいことだと思う。KCJ の活動では、先生が介入せず、生徒中心のシステムであることがわかる。フィリピンの人々は、レジリエンス、竹のようなしなやかさが特徴として言われている。これからも、皆様のお力をいただきながら、KCJ を取り入れていきたい。そして、ここにいる皆が、その気持ちになっていると思う。



② Emiliano B Elnar Jr. 研修員

KCJ について、3 点のことに気が付いた。1 コンセプトの把握、2 理解を深める 3 クリティカルシンキング。

それに加えて、特に、知識の分野では、「行動言語」を使って、今学んでいるカテゴリーを理解することができる。スキルの分野では、「行動言語」を使って、クリエイトすることにつかっていくことができる。KCJ に加えて、これらの高度な教育が行われていることがわかった。



③ Imelda Binobo 研修員

KCJ の研修を終えて、自身を持って申し上げられることは、私の本校の先生方は 100 パーセント、この KCJ の実践に取り組んでいけると確信している。ありがとうございました。



④ Mary Anne D. Bacalso 研修員

「人生では、励まされ、取り組んだことをつかむことができる」という言葉を思い出した。私は、常にどうしたら、よい教え方ができるか探し続けているが、ちょうどいいタイミングで、この KCJ という教え方に会ったと思っている。日本で、KCJ の実際を見ることができ、フィリピンに帰ってから自分のクラスで実践していきたいと考えている。フィリピンでは、新学期が来週 6 月 5 日から始まるが、そこで活かしていきたい。皆様に感謝申し上げます。



⑤ Felbirt L. Atillo 研修員

私は、経験こそが最善の学びであると考えている。日本に到着したその日から、実際に様々なことを学ばせていただいた。KCJ も、学校現場やワークショップで経験をさせていただき、深く理解することができた。私たちはフィリピンに帰り、この手法を用いることができると思う。

ただ、クラスの人数がとても多く、準備が大変だ。大きな課題を背負ったことになったと思うが、ここで経験したこと、学んだことを活かして、なんとか取り組んでいけるのではないかと考えている。また、実際に小学校と高校で KCJ の授業を見ることができ、私はこの挑戦をする覚悟ができていると思うし、同僚の二人の先生も学校に帰り、同じように挑戦をしていく覚悟があると思う。学んだことをすでに話し合っていて、とてもワクワクしている。大変貴重な経験になった。



5 閉講式（進行：清水主任指導主事）

（1）挨拶

◆ JICA 東京国際センター 長谷川 敏久 次長〔要旨〕

みなさん、こんにちは。JICA 東京国際センターの長谷川と申します。皆さん、短い間に、非常に中身の濃い研修を終えられたことを、まずお喜び申し上げます。通常、こういった場では、研修成果をそれぞれの職場に持ち帰って活用してくださいということを申しあげますが、先程の報告をお聞きして、そんなことをいう必要はないと感じました。

皆さん、研修を終えられて、お疲れなのかなと思いましたが、疲れを感じさせる方はおられなくて、非常に前向きで、早く帰って研修成果を活かしたいという思いが感じられ、私も非常にうれしく思います。

もう一つ感じたことは、今回、日本の先生方とフィリピンの先生方がいっしょになって、授業を作っていただいて、日本の子供たちにも、フィリピンのことをお伝えいただいて、非常に国際交流のよい場をつくっていただいたと思います。ほんとうにありがとうございました、このプロジェクトは、始まったばかりですが、埼玉の先生方の御協力をいただき、本当にいい成果が期待できると確信しました。

また、次回、皆さんの御報告をぜひお聞きしたいと思います。ひきつづき、御協力をよろしくお願いします。ありがとうございました。



◆ 埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課 杉田主幹兼主任指導主事〔要旨〕

皆さん、こんにちは。私は、埼玉県教育局高校教育指導課の杉田です。研修員の皆さん、埼玉県での研修は、充実したものになりましたでしょうか。

先程の評価会の成果報告、そして今の皆さんの顔を見れば、この埼玉研修が大成功だったのではないかと思います。

JICA草の根技術協力事業は、埼玉県とフィリピンの交流によりお互いの教育の質を高めていくことを目的としています。今回の研修の中では、総合教育センターでの研修のほかに、小学校、高等学校を訪問していただきました。埼玉の学校の訪問が、皆様にとって参考となれば幸いです。

8月には、第2回専門家派遣が予定されています。今回の研修で得た情報や技術等を周りの先生に伝えてもらえればと思います。

埼玉県教育委員会は、JICA東京の皆さまに、引き続き御協力いただきながら、この事業を推進してまいります。これからも、人と人との交流を積み重ねて、さらに互いのよい部分を学び合い学び続け、お互いの教育の質を高めていきたいと考えています。

また、事業の実施機関である総合教育センターの小島所長をはじめ、指導主事の皆様には、これまでの御尽力に改めて感謝を申し上げます。

おわりに、皆さんの帰国の途の安全と、帰国後の御活躍を、また、今後の交流が、お互いにとって充実したものとなるようお願い、挨拶といたします。



◆ 埼玉県立総合教育センター 小島所長 〔要旨〕

Hello again everybody? 皆様が来日されてから、あっという間に1週間以上が過ぎ、この閉講式がすみますと、成田空港近くのホテルへ移動されて、明日はもう飛行機に乗って帰国される予定です。この1週間、多くの研修に取り組んでいただき、また休みの日にも日本文化体験にお出かけになり、大変お疲れのことかと思えます。この埼玉での研修はいかがでしたでしょうか。

研修員の皆様には、総合教育センターでの研修はもとより、県内の幼稚園、小学校、高等学校、特別支援学校への訪問においても、とても積極的に研修に取り組んでいただきました。

今回の埼玉研修は、16人という大人数でしたが、皆様の研修に臨まれる協力的な姿勢に助けられ、無事に研修を終えようとしています。この研修に当たり、私ども総合教育センターでは、全所員が協力して、皆様に実りある成果をお持ち帰りいただけることを願って、全力を尽くして頑張りましたが、もし至らぬ点等がございましたらアドバイスをいただくと幸いです。

皆様と私たちは、物理的には海を隔てて離れた国に住んでいますが、「友情の絆」できわめて強く結ばれました。この絆は、「子供たちのより良き未来」のために役立つでしょう。

私たちは、今回の研修を通して、「子供たちを思う熱い思い」を皆様から感じました。さらに私たちの「友情の絆」が深まることを確信しております。

子どもたちは、私たちの未来を創ります。お互いに教育を担う者として、子供たちのために全力を尽くしてまいりましょう。

本事業を展開するに当たり、物心両面から多くの御支援をいただいている JICA 東京国際センター次長 長谷川様を初めとする JICA 東京の皆様には厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。終わりに、研修員の皆様の御活躍と、フィリピンと日本の教育の益々の発展をお祈りいたしまして、私の挨拶といたします。Thank you very much.



(2) 修了証授与

10日間の研修の修了にあたり、JICA東京国際センター長谷川次長より、研修員一人一人に草の根技術協力事業（フィリピン）第1回埼玉研修の修了証が授与された。一人一人の名前を呼び、嬉しそうに修了証を手取る研修員の笑顔が印象的であり、充実した研修であったことを物語っていた。



【JICA長谷川次長より、修了証を授与】

(3) 研修員代表挨拶

◆ 研修員代表 ヘルータ氏 〔要旨〕

こんにちは、まずは、JICAの皆様にお礼を申し上げます。JICAは、国際協力の様々な面で御尽力されておりますが、今回も私たちを大変力強くサポートしてくださいました。国と国、人々と人々をつなげる役割を果たしてくださいましたと思います。私たちは今回あたえられたチャレンジと課題を喜んで受け入れたいと思います。そして、フィリピンの教育の質を高めるべく、担当の第7地区だけでなく、フィリピン全体に今回学んだことを広めたいと思います。



埼玉県教育委員会、教育局、教育センターの皆様、大変ありがとうございました。心からお礼を申し上げたいと思います。たいへんよくプランされたプログラムで、実践の場もみることができましたし、ワークショップも受けることができました。毎日、様々な活動を見ることができましたことをありがたく思っています。日本の先生方が、学びの環境をどのように構築しているのか、日々どんな取組をしているのかということを垣間見ることができたかと思えます。

また今回、KCJ、知識構成型ジクソー法を学びました。実際、学校でどのように実践されているかということ、クリティカルな目で見てまいりました。今回は、皆様のおかげで素晴らしい経験ができ、KCJについても理解を深めました。

日本では、教育の質もちろんですが、いろいろなものにアクセスするということが保障されています。たとえば、ボッチャを通して、障害者スポーツについて学ぶといった機会が設けられているということで、子供たちが誰も置き去りにされていないということも学ぶことができました。先生と子供のやりとりという場面でも、普通は先生中心の教科を教えるアプローチが多いが、まさに生徒中心の教え方であったと思います。フィリピンに帰りましたら、またクラスの数や、学習のガイドなど制約はあるが、例えば、エキスパート活動、ジクソー活動、クロストークをどう時間配分をしていくかということ先生方が工夫すれば、取り入れていくことができると思えます。

この10日間の研修の期間で、私たちが経験したこと、得たことはまさに豊穡の土地だと思います。たっぷり栄養が与えられた土地に、苗木を植えて、しっかりと植物に育てていくということは、私たちの努力にかかっています。ここにいる先生達は、自分たちが学んだことを実践し、同僚の先生に伝えていくという覚悟を持っています。教育のメソッドは、実践しながら、教えの質を高めていく連続です。KCJ方法も私たちの国でも応用できると思えます。先生方や、マネジメントにあっている人たちとも、この研修の成果をシェアしていきたいと思えます。

繰り返しになりますが、種を撒き、栄養を与えて、しっかりと育てていくことが、これから私たちがしていくことです。

最後になりますが、JICAの皆様、埼玉県教育委員会、教育局の皆様、本当に素晴らしいプログラムをありがとうございました。

最後に、みんなで歌をうたいましょう。 ” You are my sunshine.”

(4) 贈呈品交換

閉会後に、フィリピン側からは記念品が埼玉県側に送られ、あらためて親交を深め、全員から、お礼の気持ちを込めて、歌が贈られた。

最後は全員で記念写真を撮影し閉講式は終了した。



Ⅲ 成果と課題

1 成 果

- ・ 知識構成型ジグソー法を用いた授業の流れを理解できた。
- ・ 知識構成型ジグソー法の授業案作成について理解できた。
- ・ 学習科学に基づいた生徒等の学びについて理解できた。
- ・ 県立総合教育センターを中心とした埼玉県の研修体系や、研修の方法について理解できた。
- ・ 8月の専門家派遣に向けて、訪問日程案を協議することができた。
- ・ 8月の専門家派遣時の授業テーマについて協議し決定することができた。

2 課 題

- ・ 日程の関係上中学校を訪問することができなかった。
- ・ 40名規模のクラス単位で取り組んでいる知識構成型ジグソー法の授業見学が実施できなかった。
- ・ 8月の専門家派遣において実施する、知識構成型ジグソー法を用いた授業テーマを、フィリピンの環境に合った授業案にどう反映していくか。



